

# 令和5年度 聴覚障がい児支援中核機能 モデル事業の取組について



神奈川県障害福祉課

# 聴覚障がい児支援中核機能モデル事業の構成

- 1 聴覚障害児に対応する協議会の設置
- 2 聴覚障害児支援の関係機関との連携
- 3 家族支援の実施
- 4 巡回支援の実施
- 5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施



# 1 聴覚障害児に対する協議会の設置

聴覚障がい児及びその家族に対し、早期から必要な支援を切れ目なく提供できるよう、各分野の関係機関等が連携した支援体制を整備し、早期支援を推進するため、「神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備推進協議会」を設置している。

## 【今年度の開催状況】

第1回（7月12日開催） 議題：令和5年度聴覚障がい児支援中核機能モデルの実施計画について

第2回（11月28日開催） 議題：関係機関等の取組状況について

第3回（3月26日開催） 議題：令和5年度中核機能モデル事業の取組について

## 2 聴覚障害児支援の関係機関との連携

医療・保健と切れ目なく連携しつつ、既存機関との連携を強化し、聴覚障害児の乳児からの対応を強化する。

- (1) 市町村
- (2) 医療機関
- (3) ろう学校



## (1) 市町村

療育担当部署に連絡をして、中核機能が設置されたこと、家族教室等の事業の紹介などを行う。また、課題等についても情報交換し、顔の見える関係づくりを目指して順次訪問中。

### [訪問実績]

- ・平塚市、大磯町、小田原市、大和市、厚木市
- ・伊勢原市、茅ヶ崎市、逗子市、鎌倉市



## (2) 医療機関

子どもの診断や支援に関わってる県内の代表的な病院への訪問をしている。

### 【訪問先】

小田原市立病院、北里大学病院等



### (3) ろう学校

各学校の教職員の異動もあるため、新年度の挨拶、情報交換を行っている。

#### [訪問実績]

- ・県立平塚ろう学校
- ・横須賀市立ろう学校
- ・県立相模原中央特別支援学校

◇訪問したろう学校が家族教室を見学し、周知に協力してもらっている。

◇平塚ろう学校の教諭に家族教室の講師を担当してもらった。

# 3 家族支援の実施

保護者に対する相談、補聴器等の情報提供、  
家族教室による支援を行う。

(1) 相談支援

(2) 家族教室



## (1) 相談支援

聴覚障がい児の家族を対象とした療育や日常生活等の相談、補聴器を活用できる社会資源等の情報提供や他の支援機関への繋ぎ等を行っている。

### 【実績】

相談件数(延べ): 582件



## (2) 家族教室

聴覚障がい児や家族同士が交流する場として家族教室を開催している。今年度は毎月、実施している。

- 第1回 4月19日(水)13:30～15:00 テーマ:聞こえにくいってどんな感じ?  
会場:聴覚障害者福祉センター 6家族16名(聴覚障がい児7名)参加
- 第3回 6月10日(土)13:30～15:00 テーマ:絵本を楽しもう!  
会場:聴覚障害者福祉センター 6家族20名(聴覚障がい児7名)参加
- 第6回 9月27日(水)13:30～15:00 テーマ:先輩ママの体験談を聞こう  
会場:小田原市民交流センター 4家族10名(聴覚障がい児4名)参加

※手話を知りたい保護者に「しゅわまる」を紹介している。

## 家族教室参加者の声

- 難聴疑似体験では、子どもが普段どれだけ大変な思いをしているか知ることができ、よい体験だった。
- 先輩ママに子育てのこと、地域の学校、ろう学校のことなどを教えてもらい、進路の参考になった。
- 子どもの難聴という同じ悩みを持つ家族の方々とお話ができ、子どもへの接し方などを知る貴重な機会となった。

## 4 巡回相談の実施

地域の児童発達支援センター、保育所等を巡回し、職員に対して支援を行う。

- (1) 児童発達支援センター
- (2) 保育所、幼稚園
- (3) 相談支援事業所



## (1) 児童発達支援センター

政令・中核市を除く県域16か所のうち、昨年度末までに2か所、4～7月までに14か所、合計16か所の児童発達支援センターの巡回を行った。

※巡回してみると、実際に聴覚障がい児が通園している児童発達支援センターはそれほど多くないが、聴覚障害者福祉センターとのネットワークができつつある。



## (2) 保育所、幼稚園

保育所等からの要望で巡回相談を実施し、聴覚障がい児支援のコミュニケーション支援や保護者の気持ちの受け止めなどについて必要な相談支援を行っている。

令和5年3月に中核機能が実施した研修会に参加した保育所から要望があった。

[訪問実績]

11施設(藤沢市、鎌倉市、茅ヶ崎市)



### (3) 相談支援事業所

児童発達支援センターを訪問した際に、サービスを利用する前に障害児支援利用計画を作成することになる相談支援事業所を訪問してはどうかと助言があった。

⇒7月に茅ヶ崎市の施設に訪問



## 巡回支援の例

- ・子どもからの表出を促すための絵カードや声掛けの工夫をして、子どもからの表現を増やしてあげるとよい。様々な選択肢を示して子どもに選んでもらう場面を増やすとよい。
- ・コミュニケーションの工夫としては、はっきり、ゆっくりめに話す、顔を見て、指さしや身振りを一緒にした方がよい。





## 5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

乳幼児が通う施設（保育所、幼稚園、児童発達支援センター等）の職員を対象として、聴覚障がい乳幼児の早期発見・療育の必要性、接し方等に関する研修会を実施する。年度内に3回実施。

- 第1回：6月28日 13:00～15:00 参集・オンライン併用  
会場：聴覚障害者福祉センター  
講演「具体的な聴覚障がい乳幼児の支援方法について」  
講師：大石 視朗氏（元 県立平塚ろう学校教諭）  
定員：20名  
参加者：53名（参集4名・オンライン49名）



## 5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

●第2回:10月31日 13:30～15:00 参集・オンライン併用

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「聞こえにくい自分とどのように向き合ってきたか」

講師:能勢 江美子氏(NPO法人 神奈川県中途失聴者・難聴者協会会員)

定員:20名

参加者:32名(参集1名・オンライン31名)

●第3回:2月28日 13:30～15:30 参集・オンライン併用

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「聴こえない・聴こえにくい子どもの育て方」

講師:南村 洋子氏(全国早期支援研究協議会会長、元東京都立大塚ろう学校)

定員:20名

参加者:26名(参集2名・オンライン24名)

## 研修受講者の声

- ・自己肯定感を育む大切さを学び、保育の基本が健聴者と難聴者にとっても重要な役割を担っていると感じた。(第1回)
- ・子ども一人一人に合わせた丁寧な関わりの重要性を改めて認識した。(第1回)
- ・今回の研修で聴覚障がいの人がどのように工夫し、生活しているのかが分かった。(第2回)



## 6 今年度の取組のまとめ

### (1) 関係機関との連携

- ・9市、3ろう学校に訪問し、情報交換を行い、顔の見える関係を構築した。
- ・リーフレットに「聞こえのチェックリスト(目安)があると良い」との意見を取り入れ作成した。

## 6 今年度の取組のまとめ

### (2) 家族支援

- 日常生活の相談に対応するとともに、支援機関への繋ぎ等を行った。
- 家族教室を毎月開催し、先輩保護者や当事者からの意見を聞いて参考になったとの感想が多い。
- 一方、同じ悩みを持つ家族との情報交換の時間が、より長くあるとよいとの意見があった。

※手話を知りたい保護者に「しゅわまる」を紹介した。

## 6 今年度の取組のまとめ

### (3) 巡回支援

- ・児童発達支援センター等16施設、保育所等11施設に巡回支援をした。
- ・手探りで対応していたが、聞こえについて説明をしてもらったり、具体的なコミュニケーションの工夫が聞けてよかったとの感想が多い。
- ・一方、保育所からは継続的に巡回してほしいといった声があった。

## 6 今年度の取組のまとめ

- (4) 聴覚障害児の支援方法に係る研修
- ・3回開催し、聞こえにくいとは具体的にどのようなことなのか、また当事者の話から聞こえにくい子どもの気持ちを知り、今後の支援に役立つ内容だったとの感想が多かった。
  - ・一方、昨年度と比べると、難聴児が在籍する施設からの受講者の割合が増加している。  
(R4:37% ⇒ R5:54%)

# 7 来年度の取組の方向性

令和4年12月からモデル事業に取り組んできたが、令和6年度から本格実施に取り組む。

## (1) 関係機関との連携

- ・引き続き、市町村、医療機関、ろう学校との連携を図る。
- ・作成したリーフレットを関係機関に配布・訪問し周知及び情報交換をする。



# 7 来年度の取組の方向性

## (2) 家族支援

- ・増加する相談に対応するため、相談員等を4名配置する予定。
- ・家族教室を実施した後に、個々の家族の相談に対応するため、引き続き、個別相談の時間を設ける。
- ・同じ悩みを持つ保護者同士が気軽に話せるよう、「おしゃべり広場」を開催する。

# 7 来年度の取組の方向性

## (3) 巡回支援

- ・引き続き、希望する施設に巡回支援を実施する。
- ・一度、訪問した施設でも、継続した支援が必要な児童がいる場合は、定期的に支援を行う。

# 7 来年度の取組の方向性

## (4) 聴覚障害児の支援方法に係る研修

- ・引き続き、早期発見・療育の必要性、接し方等に関する研修を実施する。
- ・難聴者がいる施設からの受講者の割合が増加していることから、難聴児が在籍する施設の職員向け研修会を実施する。